

若手社員が採用主導

ダイワコーポ 学生目線で魅力PR

ダイワコーポレーション（本社・東京、曾根和光社長）は、若手人材の確保育成に向けた新たな取り組みを進めている。

より積極的な採用活動を展開するため、昨秋には「和く和くプロジェクト」

を発足。若手社員自らが就職説明の企画立案などを手掛け、新卒学生の獲得につなげている。

同プロジェクトは「来年四月入社予定の新卒採用を成功させる」（曾根社長）ことを目的に始めた。

学生と年齢が近い社員のアイデアを採用活動に生かすことで、物流や企業に対する関心を高め、有能な人材を獲得したい考え。

この数年、企業の人材獲得競争は激しさを増し

ている。特に物流はメーカーなどに比べて知名度が低く、採用活動に苦戦する企業も珍しくない。

学生の応募を増やしたり、入社後の早期離職を防ぐには、採用段階から物流業界の現状、業務内容、企業理念などをしっかり伝える必要がある。

社員同士のつながりも強化

このため、同社は入社

三年以内の若手社員十七人が参加するプロジェクトチームを結成。昨秋から人事担当者、採用活動の専門家を交え、どうすれば学生の目線に立ったプログラムを策定できるかの検討を重ねてきた。

今年実施した就職説明会、倉庫見学会も若手社員が司会進行から説明、スケジュール調整などを担当。各会終了後には話

し合いの場を設けて改善を繰り返し、六月までに八人の内定者を得た。プロジェクトを通じて

「若手社員同士のつながりが強まるとともに、現状と課題を認識して解決する能力も高まった」と曾根社長。

今後は内定を出した学生のフォローを続け、まずは来年四月の入社につながっていく。

（小林 孝博）